

■開催日時

令和6年9月27日（金） 午後7時00分～午後9時00分

■開催場所

四季の森生涯学習センター東館 大会議室

■出席者

委員 9名

酒井克典委員長、森正樹委員、吉良勉委員、山田俊朗委員、小山雅充委員、
雪岡のり子委員、畑弘恵委員、山本幸雄委員、松本修委員

オブザーバー 4名

乳原正文丹波土木事務所所長補佐、清水夏樹農都環境政策官、
九鬼雅寛地域整備課係長、田中和哉社会教育・文化財課長

事務局 3名

酒井誠商工観光課長、岡佳巳商工観光課係長、野口翔大商工観光課主事

■欠席者 4名

西村好太委員、松浦由美委員、西尾雅子委員、濱口杏梨委員

■傍聴者

0名

■会議の要旨

以下のとおり

1. 開会

2. 委員長あいさつ

3. 協議事項

(1) 桜ビジョンの策定に向けた検討

(桜ビジョン案の概要を説明)

- ・桜ビジョン案についての意見は、各委員から個別に事務局に連絡。
- ・【資料2】の検討事項に沿ってグループで意見交換した。

<<検討事項①>>ビジョンの計画期間

事務局 (資料により説明)

- 意見
- ・植物にとって10年はあっという間である。10年で検証し直すのはよいが、ビジョンはこの先、市がどのように取り組んでいくかを示すものなので、10年といわず、15年、20年という長いスパンで考えた方がよい。他市町の事例報告では10年どころではなく、100年単位で考えているものもある。本腰を入れるのであればそのくらいで考える必要がある。
 - ・10年でよいと思う。桜の寿命は長いですが、丹波篠山市内で桜について真剣に考えている人は少ない。桜が咲いているときは関心があるが、それ以外の期間や維持管理には関心がない。今この検討委員会のメンバーで考えられるのは10年くらいまでではないか。
 - ・10年でしっかりと実施し、検証をするが、その先の将来につながるものであるというような書きぶりとしてはどうか。

<<検討事項②>>重点地区・モデル地区の選定

事務局 (資料により説明)

ビジョン案では、率先して実施していく地区として、「重点地区・モデル地区」の掲載を予定している。事務局で考える地区選定の要件は資料の通りで、篠山城跡周辺、篠山川左岸のような地域を想定している。これが適当なのか、それ以外の場所の案があるのか、意見をいただきたい。

- 意見
- ・選定を受けることで得られる恩恵はあるのか？これから桜でどのような地域にしていくのかを明確に示していく必要がある。
 - ・行政だけではなく、地域も関わっていくのが理想。行政と地域が一体となって進めていく仕組みづくりが必要になる。
 - ・地区に限らず、象徴的な一本の木を含めてもよいのではないか。
 - ・有居の桜並木のように広域ではなく、単独の自治会で管理されている場合を含めてもよいのではないか。
 - ・篠山川の西紀大橋の上流にも桜がある。渡瀬橋から川代ダムの間としてもよいのではないか。
 - ・篠山川の右岸にも桜があるが、桜協会のように定期的に手入れしている主体はない。未来志向で活動を広げていくことを目指すなら右岸（旧西紀町側）を含めてもよいのではないか。

<<検討事項③>>財源をどうする？

事務局 (資料により説明)

桜協会であれば会費や市、県の補助金で事業を実施しているが、市や県の補助金は限られる。今後、市内全域で桜の手入れを進めていくためには多くの資金が必要になってくる。財源として考えられるアイデアをいただきたい。

- 意見
- ・桜まつり来場者など、桜目当ての観光客から収入を得ている事業者や観光協会から寄附を募れないか。
 - ・桜協会の加入自治会を増やして会費収入を増やす。桜の維持管理に関わる自治会が増えると桜協会の委託料も増えるが、現在の1本120円で計算すると1万本でも120万円。市の補助金を増額してもらう必要もあるが、効果を考えるとそれほど高くないのではないか。

<<検討事項④>>所有者を明確にするためには？

事務局 (資料により説明)

桜ビジョンでは、多くの人が桜に目を向け、各々手入れしてもらえるように掲げたいが、無許可ではなかなか手を出しにくい。一方で、所有者、管理者について、河川敷など公共の場所で植樹から年月が経過したものは不明確になっているケースも多い。実際に桜の整備を進めるには所有者の明確化が不可欠であるので、その方法についてご意見いただきたい。

- 意見
- ・個人所有地の桜は代々継承されていくと思うが、河川敷のものは年月の経過により、当事者意識を継続して維持管理に積極的に関わっているケースは少ないのではないか。本来は自治会で管理するべきだが、その認識は乏しい。
 - ・市の報償金があり、各自治会で河川敷の草刈りはしているが桜には目が向いていない。桜についても各自治会で維持管理していく必要があると思う。改めてそのように周知する必要がある。

<<検討事項⑤>>自分事として関わってもらうためには？

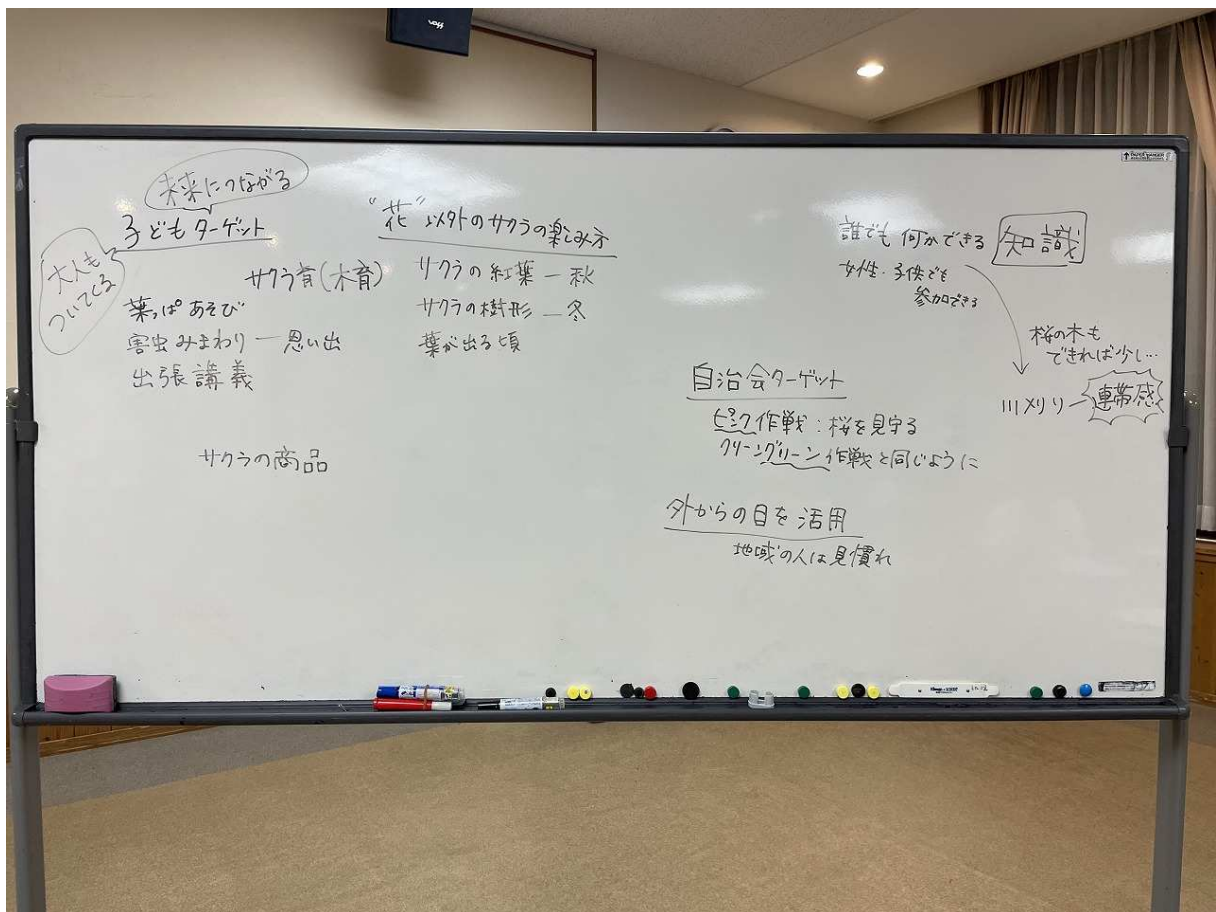
事務局 (資料により説明)

多様な主体に自分事として桜に関わってもらえる提案としてどのようなものがあるか、ご意見をいただきたい。

- 意見
- ・得があること、損があることについて人は積極的に動く。そのような投げかけができればよい。
 - ・自治会として自ら動いてもらうには、既存の活動に加えるということでクリーングリーン作戦にあわせて桜の手入れもしてもらうのはどうか。
 - ・地元が見慣れているので意識が向きにくい。外からの目を取り入れるのが桜に関わるきっかけとしてよいのではないか。
 - ・将来のためには子どもの関心を高める必要がある。例えばサクラ育（さくらいく）として、葉っぱ遊びや害虫の見回り、出張講義など、思い出に残れば桜を大事にしようという気持ちが継続するのではないか。

- ・河川草刈りなど、地域の連帯感が高まっている機会に桜の手入れについて教える人がいれば、桜の管理をしようという意識が生まれるのではないか。
- ・女性や子どもなど、誰でも何かできる。そのような桜の管理方法を提案できればよい。
- ・桜は花のイメージが強い。その他の時期も関心を持ってもらえるように、紅葉、桜の商品開発など工夫が必要。

清水政策官 たくさんの方が自発的に関わりたいと思えるように、手をあげやすいアイデアを「戦略」としてたくさん盛り込んだビジョンとなればよいと考える。



4. その他

今後のスケジュールについて

事務局

(次第「4. その他」に基づき今後のスケジュールを説明)

5. 閉会